

# 始良市行政改革推進委員会会議録

## 1 会議の日時・場所

令和元年度第1回 始良市行政改革推進委員会  
令和2年2月3日（月）14時00分～15時40分  
始良市役所 本館1階 入札室

## 2 出席委員

有馬 京子	委員
小山 剛	委員
柊原 美恵	委員
重久 京子	委員
田中 昌之	委員
外山 浩己	委員
山本 敬生	委員
脇之園 廣明	委員
有村 繁樹	委員

## 3 議題

会長選出  
諮問書提出  
始良市行政改革推進委員会について  
始良市行政改革推進体制等について  
始良市の財政状況について  
第3次始良市行政改革大綱（素案）概要説明  
今後のスケジュールについて

## 4 議事の概要（別紙のとおり）

#### 4 議事の概要

##### 【会長選出まで事務局で進行】

- ・ 委員紹介、事務局紹介
- ・ 委員長選出

(事務局)

始良市行政改革推進委員会条例に基づき、委員長選出を行う。委員選出は互選となるが、選出について何か意見はないか。

(委員)

山本委員を委員長に推薦する。

(委員)

異議なし。

(山本委員)

了承する。

##### 【山本委員を委員長に選出】

- ・ 職務代理者の指名

##### 【山本委員長より外山委員を指名】

- ・ 会議録署名委員の指名

##### 【山本委員長より小山委員を指名】

- ・ 諮問書提出

##### 【事務局により諮問書読み上げ、委員長へ提出】

(委員長)

諮問書を受け取った。今後、本委員会にて協議を行っていく。

——以下審議——

(委員長)

始良市行政改革推進委員会について、および始良市行政改革推進体制等について事務局に説明を求める。

##### 【事務局による資料の説明】

○始良市行政改革推進委員会条例に基づく、委員会の意義、審議事項、委員会体制、行政改革推進体制の説明

○市の人口や職員数及び組織についての説明

- ・ 平成 22 年の合併以降、本市の人口は増加しており、合併当時からすれば、本年度初めの段階で世帯数 3,756 戸、人口 2,320 人の増。東洋経済が毎年行っている住みよさランキングにおいて、ここ数年、九州・沖縄編のトップ 20 位以内に入っており、2017、2018 年においては、鹿児島県内トップとなっているなど、住みやすさが高く評価されている。

- ・ 合併以降定員適正化計画に沿って、組織のスリム化、事務の効率化等を進める中で数が減少しており、今年度初めの職員数は 589 名。今後は、定年退職者数、定年延長の動向を研究すると

ともに、事務の効率化、ICT化の検討を進め、定員の適正化に取り組んでいく。

(委員長)

これまでの説明で何か質問はないか。

(委員)

職員数については正規の職員数となるのか。非正規の職員数はどうなのか。

(事務局)

正規の職員数。非正規含めた職員数は、業務の関係上、時期により違う。ハローワーク等へは1,100名と公表している。次回の委員会ではその時点の人員を開示する。

(委員)

男女比はどうなっているのか。

(事務局)

同じく次回に説明する。

(委員)

人口増減の内訳について始良市は把握しているのか。

(事務局)

4月5月は転出入に伴う、社会増減であり本市は微減する。6月以降については自然増減により、微増となっている。

(委員長)

ほかに質問はないか。

**【質問なし】**

(委員長)

始良市の財政状況について、事務局に説明を求める。

(事務局)

**【財政課からの説明】**

- ・経常収支比率は93.3。経常収支比率が低いほど、財政の弾力性が高く、自由に使えるお金があるが、本市は硬直ぎみ。
- ・財政調整積立金。H29年度からH30年度までで8億円減少した。
- ・高齢化と子育て世代の人口増により、扶助費の伸びが著しいのが特徴。
- ・現在本市は大変厳しい状況にある。収納率の向上、利用料の見直し、ふるさと納税を利用するなど新規収入源の確保、事業のビルド&スクラップ、組織の再編等を通じ歳入の確保と歳出の抑制が急務である。

(委員長)

何か質問はないか。

(委員)

ふるさと納税の規模はどうなっているのか。

(財政課)

県内では下から2～3番目。昨年度は1億5千万。平成31年度はそれに届くか届かないか。返礼品の魅力をもう少し磨かないといけない。昨年度、7～8割を占めていた返礼品の「財宝」

や「高牧の森の水」が今年度から返礼品から外れたが、寄付額はあまり減少しなかった。

(委員長)

取り合いに勝たなければならない。

(委員)

扶助費が特徴とのことだがどうということか。

(財政課)

伸び率が大きい。子育て世代が増えていることも一因であるが、そのこと以外でも他市と比較しても介護、障害の伸びが顕著となっている。

(委員)

蒲生でも特別支援の学級がある。子供がいれば扶助費が増える。人口増も影響があるのだろう。

(委員長)

ほかに質問はないか。

**【質問なし】**

(委員長)

第3次始良市行政改革大綱（素案）概要と、今後のスケジュールについて事務局説明を。

**【事務局】**

○行政改革大綱素案について

- ・(1) 市民サービス及び利便性の向上につきましては、庁舎建設や市民の手続き・相談等、市民の視点に立った検討と取組みが必要であるとの考えから。
- ・(2) 職員の意識改革につきましては、公務員として、市の職員として再度職務に対する姿勢を再確認する必要があるとの考えから。
- ・(3) 事務事業の見直し及び事務の効率化につきましては、始良市のため、市民のために、本当に必要な事業を限られた職員数でいかに取り組んでいくことが必要か、また、そのためには見直しをしなければならないのではないかと、という考えから。
- ・(4) 民間活力の活用につきましては、人口は増え、職員数は減少する中、市民ニーズに即したサービスを提供するためには民間の力やノウハウの活用が必須であるとの考えから。
- ・(5) 公共施設等の適切な維持更新につきましては、市民ニーズや現在の始良市の財政状況のもと、始良市公共施設再配置基本計画に基づき、長期的視点で確実に取り組んでいく必要があるとの考えから。
- ・(6) 財政マネジメントにつきましては、将来にわたり持続可能な行財政運営を確立するためには、歳出や補助金等の適正化に努める必要があるとの考えから。
- ・(7) 組織のスリム化、効率化、定員の適正化につきましては、最小の経費で最大の効果を確実に上げるためには、組織や人員数の在り方の検討は必須であるとの考えから。

○今後のスケジュール

- ・諮問書が提出された始良市行政改革大綱策定に関する調査・検討を5月から7月の3回の委員会で行う。
- ・9月の第5回委員会に検討事項の取りまとめの上、答申書作成を行い、市長へ提出を行う。

・答申を受け行財政改革推進本部会議において大綱を決定し、パブリックコメント、議会への説明の後、市民への公表を行う。

(委員長)

何か質問はないか。

(委員)

考え方の一つで、定員適正化計画について、適正数というものについて年齢構成的にいびつな構成になるかと思うので、大胆な取り組みをしてほしい。

(事務局)

合併の効果で職員数の削減を行っているが、事務量は増えながらも職員は減っており、定年延長や会計年度任用職員制度も変わっている。定数を考える際には今後の経緯を踏まえつつ制度の変容も見据えて慎重に考えていく。

(委員)

財政の点で、交付税の一人あたりの単価はどうなるか

(財政課)

国勢調査の人口をもとに、交付税の算定には人口が物差しとなっている。実際は人口が増加しているものの、交付税は上がり下がりしている。

(委員)

税収の伸びはどうか。

(財政課)

税収の伸びも人口の伸びに比してやや緩やかであり、扶助費の増加に追い付いていない。

(委員)

起業が増えているようではあるが、税収まではつながっていない。

(委員)

一番は大企業の誘致かと。

(委員長)

その他について何かないか。

(委員)

前半、後半の振り分けはどうなるのか。この資料に追加があるのか。

(事務局)

当該資料の大項目、2までを前半3以降を後半として協議していただく。

(委員)

説明段階で第1次第2次の結果を精査したものを盛り込んでいただきたい。

(委員)

1次2次のまとめをもう少し示していただきたい。意見をいうための資料が欲しい。

(委員)

資料はネットで見られるのか。

(事務局)

資料は2回目の委員会に至る前にデータなりとして示したい。

(委員)

この素案を作るまでに本部会議等で検討されたものと考えていいのか。

(事務局)

各部会での検討ののち、推進本部会議に付し、この場に諮問を行っている。

(委員)

大綱をどうやって市政に落とし込むのかも資料が欲しい。

(事務局)

あらためて説明はするが、大綱が固まり次第、実施計画を各課において組み立て、対応してきた。第3次についても、大綱が定まり次第、実施計画を整理し対応していく予定でいる。

(会長)

ほかに質問はないか。

**【質問なし】**